

## 令和 5 年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

市民バスの運行及び日向市地域公共交通計画の作成については、地域公共交通確保維持改善事業にて国庫補助を受けおり、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第 3 条第 5 項の規定により、協議会（公共交通会議）は、補助対象事業について自己評価（一次評価）を行うこととなっております。

## 1 地域公共交通調査等事業・事業評価

## ②事業実施の適切性

- A：事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された
- B：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった
- C：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった

## 2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価表

## ④事業実施の適切性の判定基準

- A：事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された
- B：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった
- C：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった

## ⑤目標・効果達成状況の判定基準（年間利用者数）

- A：達成された
- B：達成率が 60%を上回った
- C：達成率が 60%を下回った

## ＜参考＞

◇日向市市民バス利用状況（令和 4 年 10 月～令和 5 年 9 月）

・利用者数：64,297 人（前年比 -921 人）

（ぶらっとバス、南部ぶらっとバス、乗合バスとうごう、乗合バスなんぶ合計）

・定期路線型

ぶらっとバス、南部ぶらっとバス 60,394 人（前年比 -696 人）

・予約区域型

乗合バスとうごう、乗合バスなんぶ 3,903 人（前年比 -225 人）

※乗合タクシーほそしま（地域公共交通確保維持改善事業対象外）

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 6年 1月 16日

協議会名:日向市地域公共交通会議

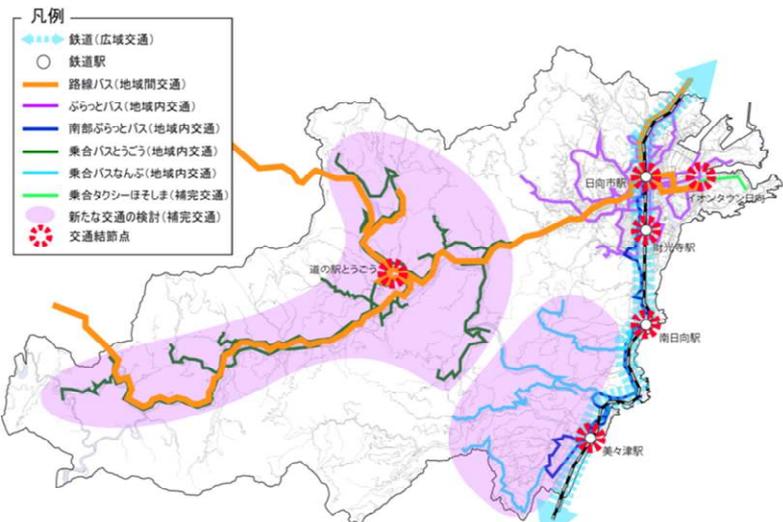
評価対象事業名:利便増進計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
<p>○調査事業の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便増進事業内容の検討 AIオンデマンド交通の視察したほか、バス停毎の利用者数を分析し、課題を整理した。</li> <li>・事業実施効果、関連事業の検討 市民バスワーキング会議の開催によるグループワークでの事業内容の検討や経費検証などを行い事業実施効果を検討した。</li> <li>・日向市地域公共交通利便増進計画の取りまとめ 課題、ワーキング会議の意見などを整理し、本市地域公共交通の利便増進が図られる計画内容を取りまとめた。</li> <li>・日向市地域公共交通会議の開催 会議を開催し、関係者の合意形成を諮った</li> </ul>	A	事業が計画どおり適切に実施されている。	<p>最終的な計画内容案は後日となるが、現在検討中の再編の方針、主な取り組み内容は、以下のとおり</p> <p>○市民バス(ぷらっとバス)の再編 利用が少ない区間の廃止等による路線の統廃合及びルート変更によるぷらっとバスの再編を行う。</p> <p>○AIオンデマンド交通の導入検討 ぷらっとバスの再編に伴い路線型のバスの利用が困難になる地域やバス停まで歩くことが困難な高齢者等への対応として現在の「ぷらっとバス運行エリア」を対象にAIオンデマンド交通を導入の検討を行う。</p> <p>○路線バスの活用 市内に乗り入れている路線バス(地域間幹線)の活用を図るため、通学通勤需要の掘り起こしにつながる路線変更を検討する。</p>

## 調査事業の概要

### ○日向市の地域公共交通の概要

日向市の公共交通は、南北を結ぶ鉄道(JR九州日豊本線)や北の延岡地域、西の日向入郷地域を結ぶ路線バス(宮崎交通)を幹線とし、これらの幹線を補完する路線として、市が自家用有償旅客運送の形で、市街地エリアに8路線、南部地域1路線の定時定路線型の市民バス、東郷・平岩・美々津・細島など、人口が少ない地域を運行する予約型乗合バス等9路線にて形成されている。



### ○調査事業の主な内容

- ・利便増進事業内容の検討(先進地視察、利用者数の分析、課題整理)
- ・事業実施効果、関連事業の検討  
(市民バスワーキング会議の開催、経費・事業実施効果の検討)
- ・日向市地域公共交通利便増進計画の取りまとめ  
(課題、ワーキング会議意見の整理、計画の取りまとめ)
- ・日向市地域公共交通会議の開催

## 基礎データ

合併状況： 平成18年2月に東郷町を編入合併  
 人口： 57,601人(令和5年12月現在)  
 面積： 336.89km<sup>2</sup> 過疎地域等指定：一部過疎(旧東郷町地域)  
 高齢化率： 34.2%(令和5年10月現在)  
 協議会開催数： 協議会 4回(R6.3開催予定含む)  
 市民バスワーキング会議 2回



## 調査前の地域交通状況(Before)

### ○市民バス利用者の減少

コロナ禍前(R1)の81,096人と比べR4の市民バス利用者が66,204人となり、市民バスの利用者がコロナ禍前から18.3%減少している。

### ○ぶらっとバス(市街地路線)の運行体制

- ・市街地エリアを8路線2台(1台が4路線)で運行しているため、1路線の時間は30分と短い、往復の場合2時間以上(1台@4路線×約30分)かかり、往復で利用には利便性が悪い。
- ・幅広いエリアをカバーしているが、利用者がほとんどない時間帯やバス停がある。
- ・バス1台あたり平日20便・日祝日12便と過密ダイヤで運行しているため、車両の故障が多い。

### ○地域公共交通に対する市民の意見

地域公共交通計画作成の際、R4に実施した市民アンケートでは、「財政負担等が増加しても公共交通サービスの拡充をすべき」が44%、「同程度の負担で可能な限り公共交通サービスを維持すべき」が30.3%と地域公共交通の維持拡充を望んでいる意見が多かった。

## 調査後の地域交通計画(After)

### — 基本方針 —

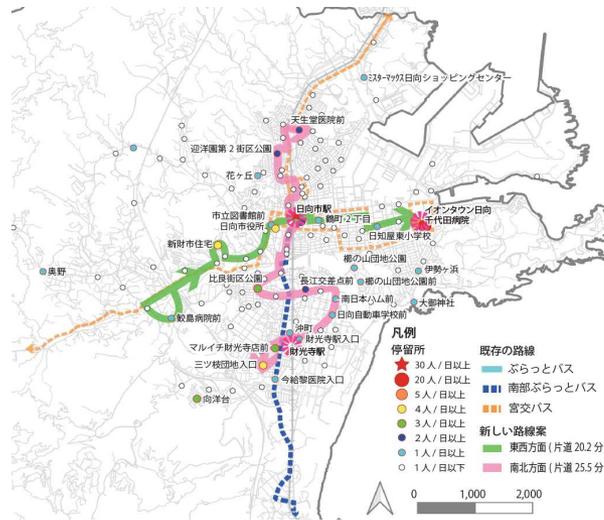
利用が少ない、全くないバス停は廃止を検討

可能な限り病院・医院、公共施設、商業施設及び住宅団地等を経由

路線バス及び南部ぶらっとバスと可能な限り重複しないルートを実行

利便性、効率性及び採算性を考慮したサービス水準を確保する

定時運行の確保



- ぶらっとバス(市街地路線)の再編(利用者の多い地区に再編し、1日あたりの便数を増加)
- AIオンデマンド交通の導入検討(交通空白地に面型の交通の導入)
- 路線バス(地域間幹線系統)などと協調した路線の検討

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月16日

協議会名: 日向市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日向市	東1コース (イオンタウン日向・櫛の山)	<p>・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。</p> <p>・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。</p> <p>・住民の要望を受け、R4.10.1から南部ぶらっとバスの新規ルートを開設し、これに伴う運行経路の延長に対応するため、休館中の温泉バス停を停止し運行ルートの改善を図った。</p>	A 計画通り適切に運行を行った。	A 年間利用者数 目標:8,398人 実績:8,474人	<p>系統によっては、目標値を達成しており、全体での目標達成率は101.5%となった一方、前年度比は98.9%にとどまった。</p> <p>令和5年5月まで、コロナ禍による外出抑制が続いたため、高齢者などの通院利用や買物利用が抑えられたことなどが要因と推測される。</p>	<p>・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。</p> <p>・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。</p> <p>・利用促進を図るために、利便増進実施計画に基づき、往復での利用がしやすい運行形態への転換や新しい交通システムの導入を検討する。</p>
日向市	東2コース1(イオンタウン日向・水ヶ浦公園・幡浦) 東2コース2(イオンタウン日向・幡浦)			B 年間利用者数 目標:6,800人 実績:6,099人		
日向市	西1コース1 (比良町・小原) 西1コース1 (比良町・奥野)			A 年間利用者数 目標:2,892人 実績:3,199人		
日向市	西2コース (本谷・新財市)			A 年間利用者数 目標:3,566人 実績:4,007人		
日向市	南1コース (比良町・向洋台)			B 年間利用者数 目標:5,882人 実績:5,534人		
日向市	南2コース (長江団地入口・往還)			B 年間利用者数 目標:6,208人 実績:5,246人		
日向市	北1コース (花ヶ丘・日向台・亀崎)			A 年間利用者数 目標:2,780人 実績:3,163人		
日向市	北2コース (大王谷・梶木)			B 年間利用者数 目標:2,310人 実績:2,043人		
日向市	美々津日向市駅線コース1 美々津日向市駅線コース2 美々津日向市駅線コース3			A 年間利用者数 目標:20,656人 実績:22,629人		

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
日向市	田野羽坂線	・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	A 年間利用者数 目標:412人 実績:426人	・3路線において目標を達成したが、全体の前年度比は94.7%となった。 ・未達の福瀬小野田線、仲深坪谷線は、定期利用していた高齢者の施設入居等により、利用者が減少したと推測される。 ・高齢化率が市街地よりも高い地域を運行しているこれらの路線維持のためには、今まで運転をしていた住民へのバス利用促進を図るなど新規利用者獲得が必要である。	・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をさせていただくことで、新規利用者の獲得を図る。  ・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。	
日向市	仲深坪谷越表線	・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。		A 年間利用者数 目標:540人 実績:570人			
日向市	福瀬小野田線	・まちづくり協議会与連携し、地区別時刻表の全戸配布を行った		B 年間利用者数 目標:1,264人 実績:1,200人			
日向市	仲深坪谷線	・車両を更新し、安全性の向上と利用機運の醸成を図った。		B 年間利用者数 目標:496人 実績:428人			
日向市	鶴野内迫野内八重原線	・空気浄化装置を設置し、安心して利用できる環境づくりに務めた。		A 年間利用者数 目標:842人 実績:910人			
日向市	寺迫庭田線	・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。		B 年間利用者数 目標:116人 実績:74人	・寺迫庭田線、飯谷田の原線の著しい利用者低下がみられる。一部固定客の利用状況の変化や、一部定期路線の導入、病院が運行する通院バスと運行日が重なることなどが減少の要因と考えられる。		・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をさせていただくことで、新規利用者の獲得を図る。  ・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。
日向市	飯谷田の原線	・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。		C 年間利用者数 目標:98人 実績:58人			
日向市	鵜毛靱木線	・空気浄化装置を設置し、安心して使用できる環境づくりに努めた。		A 年間利用者数 目標:198人 実績:237人			

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月16日

協議会名：	日向市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>日向市管内では、路線バスが、イオンタウン日向を起点として、東郷地域や近隣市町村とを結び、鉄道が、市内を南北に走り、近隣市町村間を結んでいる。</p> <p>本市では、これらの地域間幹線のフィーダー系統として、市街地を循環する「ぷらっとバス」、市街地と美々津地区を連絡する「南部ぷらっとバス」、市の南部地域(平岩地区、美々津地区)、東郷地域及び細島地区においてデマンド方式の乗合バス・タクシーを運行しており、既存公共交通機関の補完的役割や公共交通空白地域における高齢者等の日常的な移動手段を確保している。</p> <p>しかしながら、人口減少に加え、コロナ禍により、人流は抑制され公共交通利用者数は低迷している。</p> <p>今後も市民の日常生活における移動手段を確保していくため、当該補助事業を活用し、幹線系統と市内の支線のネットワークが連携した効率的な運行を行い、買い物弱者対策、外出促進等で地域活性化を図っていく。</p>

# 日向市地域公共交通会議 (宮崎県日向市)

事業名: 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

## 概要



### 【名称】

左からぷらっとバス(2台)、南部ぷらっとバス、乗合バスなんぶ、乗合バスとうごう

### 【運行主体】

日向市 (日向交通協同組合、宮交タクシー(株)に運行を業務委託)

- 平成21年度より、市街地においては路線定期型、郊外においては市西部で「乗合バスとうごう」、市南部で「乗合バスなんぶ」の運行を行い、路線バス(宮崎交通)や鉄道(日豊本線)と乗り継ぎしやすい支線交通の役割を果たしている。
- 日向市市民バスは、公共交通空白地域における高齢者等の日常生活の交通手段としての役割も有しており、市民の生活に必要不可欠なものとなっている。
- 平成28年4月より市街地と美々津地区を連絡する路線バスの廃止に伴い、代替機能として南部ぷらっとバスを運行している。
- 平成31年4月よりぷらっとバス、南部ぷらっとバスについては、日祝運行を開始している。
- 令和元年10月より細島地区において乗合タクシーほそしまを運行している。

## 基礎データ

合併状況: 平成18年2月に東郷町を編入合併  
 人口: 57,601人(令和5年12月現在)  
 面積: 336.89km<sup>2</sup> 過疎地域等指定: 一部過疎(旧東郷町地域)  
 高齢化率: 34.2%(令和5年10月現在)  
 系統数: 22系統  
 運行便数: 市街地-平日5便、日祝3便  
 南部ぷらっと-平日7便、日祝4便  
 とうごう-週2回(月~金)4往復、  
 なんぶ-週1回(火~木)4往復、  
 ほそしま-週3回(月水金)4往復※補助対象外



自治体負担額: R2 19,068千円、R3 23,025千円、R4 28,833千円、R5 35,112千円  
 協議会開催数: 協議会 4回(R6.3開催予定含む)  
 市民バスワーキング会議 2回

## 計画、目標(Plan)

第2次日向市総合計画後期基本計画(4年間:R3~R6)において、「交通ネットワークの充実」を施策に掲げ、方向性を下記のとおり示している。

- ・情報発信や乗り方教室などのイベントを開催し、利用者の増加に取り組む。
  - ・市民ニーズを的確に把握し、利用実態に応じた運行形態や運行経路の見直しに努める。
  - ・市民バスの安全で安心な運行管理に努める。
- 総合計画における目標値: 市民バス年間利用者数  
 令和元年: 81,096人⇒令和6年81,100人

## 生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

- ・生活交通確保維持改善計画に基づいて、市民バス(コミュニティバス)の運行を実施し、路線の維持・存続を図った。
- ・高齢者向けスマホ教室などに出向き、市民バスの紹介、体験乗車券の配布を行い利用促進を図った。
- ・住民からの要望により、新規経路地の試験運行を令和4年3月から実施し、令和4年10月からの本格運行とした。

## 実施状況、目標の達成(Check)

○路線別バス年度利用者目標と実績(R4年10月~R5年9月)

運行系統名(乗合バス型)				R4実績	R5計画	R5実績	運行系統名(デマンド型)				R4実績	R5計画	R5実績
東1コース(イオンタウン日向・櫛の山)				8,725	8,398	8,474	東郷	田野羽坂線			417	412	426
東2コース(イオンタウン日向・水ヶ浦公園・幡浦)				6,584	6,800	6,099		仲深坪谷越表線			583	540	570
西1コース(比良町・小原)				2,858	2,892	3,199		福瀬小野田線			1,326	1,264	1,200
西2コース(本谷・新財市)				3,700	3,566	4,007		仲深坪谷線			484	496	428
南1コース(比良町・向洋台)				5,991	5,882	5,534	南部	鶴野内迫野内八重原線			921	842	910
南2コース(長江団地入口・往還)				5,996	6,208	5,246		寺迫庭田線			105	116	74
北1コース(花ヶ丘・日向台・亀崎)				3,142	2,780	3,163		飯谷田の原線			70	98	58
北2コース(大王谷・梶木)				2,257	2,310	2,043	鶴毛榎木線			222	198	237	
美々津日向市駅線(コース1~3) *南部ぷらっとバス				21,837	20,656	22,629	合計(人)			4,128	3,966	3,903	
合計(人)				61,090	59,492	60,394							

- ・乗合バス型は、R4と比較すると1.1%減の利用となった。
- ・中山間地域を運行するデマンド型については、5.5%減であり、今後も更なる周知啓発を実施し利用促進、新規利用者獲得を図る必要がある。

## 今後の課題、対応(Action)

- ・市民、交通事業者、各種団体等の意見を踏まえ、実情に応じた路線やダイヤの見直しを行い、利便性の高い市民バスの運行を図る。
- ・人口減少の中、新たな利用者を増加させるため、市の広報紙やホームページ等を通じて、市民バスの周知活動を行う。
- ・引き続き、高齢者向けスマホ教室など、高齢者が集まる場所にてバスの乗り方の説明を行い、利用促進を図る。
- ・路線バスや鉄道の利用促進にも力を入れ、市民バスと一体となった地域公共交通の活性化を図っていく。